

多摩市観光まちづくり基本方針（素案）（概要版）

1 多摩市観光まちづくり基本方針の考え方（第2章）

（1）方針策定の趣旨・目的

多摩市は名所・旧跡をめぐる「従来型」の観光地ではありません。しかし、少子化・高齢化が進行する中で地域の活力とぎわいを持続的に確保するための手段として、コト消費、地域との交流といった「都市型」の観光が果たしうる役割があります。

本方針は、まちの活力と賑わいの創出に向け、企業、大学、市民団体など多様な主体と連携し、その活動を支援しながら推進する多摩市の観光施策の方向性を定めるため、今後5年間の基本方針を策定するものです。

（2）多摩市観光まちづくり基本方針における「観光」の定義

本方針において「観光」とは、従来型の観光にとどまらず、市民や市外から訪れる人々が、多摩市のみどり・文化・人とのふれあいなどを通じてその魅力を楽しみ、街を訪れ、消費し、再び訪れたくなるような体験をする「来訪・消費・再訪」の循環的な関係性が生み出される活動を指します。

（3）多摩市観光・交流まちづくりグランドデザインとの関係

本市は、産学官民が連携して多摩市の魅力向上や来街者の増加等を目指すため、平成31年に「多摩市観光まちづくり交流協議会」を設立し、同協議会から「多摩市観光・交流まちづくりグランドデザイン」と題する提言を受けました。

本方針は、多様な主体による知見が生かされた提言の趣旨を尊重し、策定するものです。

【参考】グランドデザインの推進に向けた行政への要望

- ①観光マーケティングに即した行政による観光実態調査・意識調査の実施
- ②マーケティングを反映した観光振興に関する基本方針の策定
- ③観光・交流まちづくりを進める中核的な組織の推進力向上に向けた継続的な取り組みの支援

2 多摩市観光の目指す姿・取組み方針（第3章）

（1）多摩市観光の目指す姿

「多摩市観光・交流まちづくりグランドデザイン」の趣旨を踏まえ、本方針では、観光を通じて多摩市が目指す姿を「発見と交流が広がり、多様な価値が調和するまちの実現」と定めます。

観光を通じ、市民、地域団体、大学、企業、行政の交流拡大

コミュニティと地域経済の活性化

まちの活力とぎわいの創出

（2）取組み方針

方針1 多摩市ならではの観光資源の発掘と磨き上げ

多摩市にある多様な資源を観光資源として捉え、民間主体と連携・協働し、外部の視点や新しい発想を取り入れ、多摩市の観光を担う人材を発掘するとともに、市民にとってシビックプライドの醸成に繋がり、訪れる人にとって来訪・再訪したくなる新たな価値を磨き上げていきます。

方針2 来訪者層ごとの誘客戦略と効果的な情報発信

近隣住民には名物づくりなどリピーター施策、全国からの来訪者にはコンテンツ誘客、インバウンドには文化体験のように、多層的な対象に応じた施策を展開します。そして、これらを効果的に伝えるため、市内外・海外に向けて、多様な媒体と手法を組み合わせて情報を発信します。

方針3 滞在時間の延伸と満足度向上

観光資源を活用したまち歩き企画や、休憩スポット整備、ナイトタイム観光を意識したイベント展開などを通じて、来訪者の滞在時間を延ばし、観光の質と満足度を高めます。

方針4 観光を推進する中核的な組織の設立に向けた検討

観光を推進する中核的な組織（（仮称）観光協会）の設立を検討します。組織の設立により、機動的で自由度が高い施策の展開を進め、機を捉えた観光振興を展開していくことが可能となります。

市は施策立案や運営支援を担う一方、（仮称）観光協会には具体的な企画立案・実施を担い、地域事業者や市民団体などがそれぞれの目的のために実施する地域の魅力発信や来訪・交流の契機となる取組みが「観光」の促進につながるよう、支援や調整を行う役割が期待されます。